



杵築市山香町上地区の住民自治協議会が地元の名所や特産品を掲載した「上村の郷観光マップ」を作りました。

2020年5月11日付大分合同新聞12面

①同地区の人たちが観光マップを作った目的は何でしょう？

地区の高齢化率が3月末現在で約50%と高く、人口も減る中、地区外に情報を発信し、訪れる人を増やすことで地域の活性化につなげるのが目的。



【杵築】杵築市山香町上地区の住民自治協議会は地元の名所や特産品を掲載した「上村の郷観光マップ」を作った。住民の高齢化が進み人口が減る中、地区外に情報を発信し、訪れる人を増やすことで地域の活性化につなげようと取り組んだ。

②マップではどんなものが紹介されていますか？

豊の国名水15選に選ばれている「水の口湧水」(南畑)や市指定の重要文化財で鎌倉時代から伝わる阿弥陀三尊像(久木野尾)など11カ所。土産物として山香米やヤマジノギク、茶といった地元産品も載せている。

マップはA3両面カラー印刷で三つ折り。2千部作製した。豊の国名水15選に選ばれている「水の口湧水」(南畑)や市指定の重要文化財で鎌倉時代から伝わる阿弥陀三尊像(久木野尾)など11カ所を紹介。土産物として山香米やヤマジノギク、茶といった地元産品も載せている。協議会の生業部会が制作を担当。昨年4月から月3回程度集まり、取り上げる名所や産品を選んだ。写真は地区に移住してきた写真家の船尾修さん(59)南畑に依頼。3月に完成した。地区の人口は3月末現在、936人で高齢化率は約50%。熊本昭憲協議会長(66)は「マップをきっかけに交流人口を増やしたい」

### 阿弥陀像など11カ所紹介

写真は完成した観光マップを持つ上地区住民自治協議会の熊本昭憲会長(中央)と生業部会長の土師剛部長(右)。左は公民館長の河野正明さん(杵築市山香町の上地区公民館)と話す。将来的には産品のインターネット販売、農地保全のための「棚田オーナー制度」の立ち上げを目指す。マップは地元住民にも配る予定。生業部会の土師剛部長(66)は一會員同士で、こんな所があったのかと話すこともあった。地域の若い人が地元を知るきっかけになれば」と話した。マップはJR中山香駅、杵築駅、大分農業文化公園などに置いている。問い合わせは協議会(☎0977-78・0202)。(佐藤由佳)

山香町上地区の住民がマップ作製  
上村の郷においでよ

③住民自治協議会が将来的に目指しているのはどんなことでしょうか？

産品のインターネット販売や、農地保全のための「棚田オーナー制度」の立ち上げ。

④マップを入手できる場所はどこですか？

JR中山香駅、杵築駅、大分農業文化公園など。